

報道関係各位

『手作り料理と味の伝承に関する意識調査』

9 割が結婚後「夫に手料理を食べさせたい」 婚約中の女性の料理回数は、週の半分以下

半数以上の女性が結婚後の料理に不安

全国農業協同組合中央会

全国農業協同組合中央会 (JA 全中) は、JA グループが取り組む「みんなのよい食プロジェクト」の活動の一環として、これから 1 年以内に結婚を予定している男女を対象に、『手作り料理と味の伝承に関する意識調査』を実施しました。(サンプル数=600 人 (男性 300 人・女性 300 人)、調査方法=インターネット、期間:2011 年 8 月 22 日~8 月 26 日)

結婚前の女性に 1 週間の料理回数を聞いたところ、平均で朝食 1.86 回、昼食 2.27 回、夕食 3.38 回で、いずれも週の半分以上の食事で料理をしていない結果となりました。しかし結婚後、夫に手作り料理を食べしてほしいと考える女性は 93.3% に達し、結婚を機に手作り料理への意識が高まることがわかりました。

婚約者に対する家庭の味の継承についての質問では、男性の「結婚する相手に自分の家庭の味を引き継いでもらいたい」という回答は 49.0% となり、「家庭の味を覚えてほしいと思わない」(19.7%) の 2 倍以上となりました。一方で女性も、55.0% が婚約者の母親から料理を「教わりたい」と答え、「教わりたくない」の 19.0% を大きく上回りました。結婚前の女性に、料理の評価が気になる人を聞くと、「夫」(84.0%)、「夫の母」(37.3%)、「夫の父」(18.3%) など夫となる人の家族が上位だったのに比べて、女性自身の家族は「自分の母」(9.0%)、「自分の父」(3.0%) と低い結果となりました。これらから、家庭の味を作ってほしいと考える男性の期待に応えようとする女性の料理に対する意識の高さや、夫の家庭へ合わせようとする女性の意識が伺えました。

この調査結果に関して、料理研究家である清水信子氏に専門家の観点から監修して頂きました。清水先生は、「食べるということは、私たちの心や身体を健康に維持するために重要な要素です。しかし、今の結婚前の若い人たちは家庭や学校で、栄養や調理法など“食”に関する教育をあまり受けておらず、自炊する人の割合も少なくなっています。しかし、結婚後は 9 割以上の女性が料理を作りたいと答えていて、結婚が食に対する意識を変えるきっかけになれば良いと思っています」というコメントを頂きました。

- 本資料に関するお問合せ先 -

全国農業協同組合中央会 (JA 全中) 広報部よい食プロジェクト推進課 担当: 森田・田中

TEL: 03-6665-6011 FAX: 03-3217-5072

調査概要

【調査名】: 手作り料理と味の伝承に関する意識調査

【調査方法】: WEB モニターによるアンケート

【対象】: 1 年以内に結婚予定の男女

【実施期間】: 2011 年 8 月 22 日 ~ 8 月 26 日

【サンプル数】: 600 人 (内訳: 男性 300 人、女性 300 人)

(在住地域: 首都圏 38.0%、関西圏 16.3%、その他 45.7%)

【監修】: 料理研究家 清水信子

次項以降に記載しているグラフの%値は小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、合計が 100%にならない場合があります。

清水信子(しみず・しんこ)氏 プロフィール



料理研究家

懐石料理から惣菜まで幅広く手がけ旬を活かしたカンタンで、おいしい和食の基本を伝えている。

上品な味付けと美しい盛り付け、わかりやすい指導には定評があり、テレビ、ラジオ、雑誌、料理講習会などで活躍中。

ライフスタイルの変化に合わせた手軽な調理法や味の研究に余念がない。

『和食かんたんおけいこ帳』(NHK 出版)

『きのこの食卓』(高橋書店)

『手作りおせち』『とっておきの和食おいしいひみつ』(以上、家の光協会)

など著書多数。

みんなのよい食プロジェクト

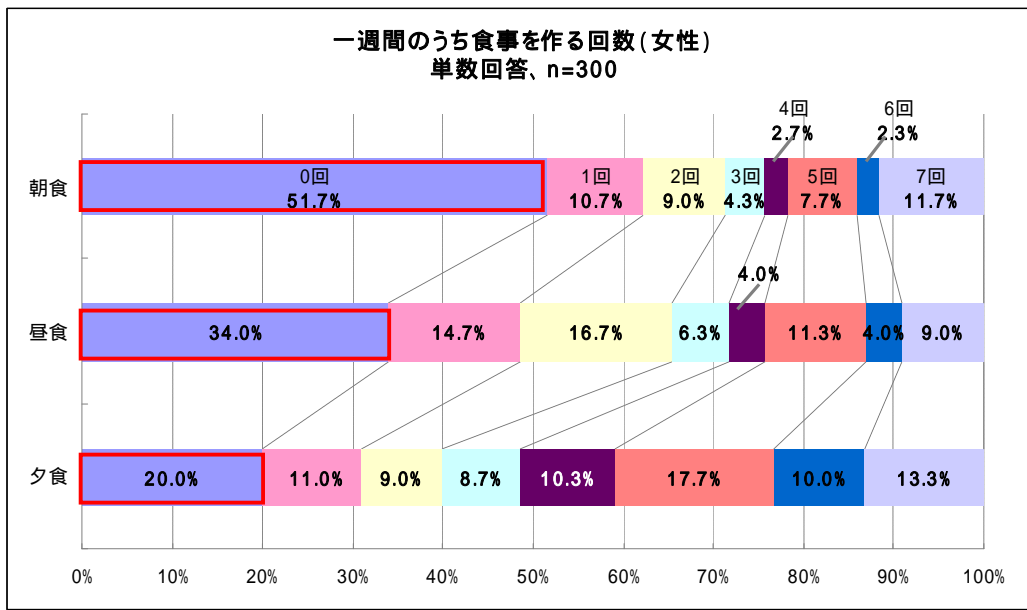
みんなのよい食プロジェクトとは、これからの日本人にとって「よい食」とは何かを、日本の農家と JA グループ、消費者、協力会社・団体のみんなと一緒に考えて、行動していく運動です。

公式HP: <http://www.yoi-shoku.jp>

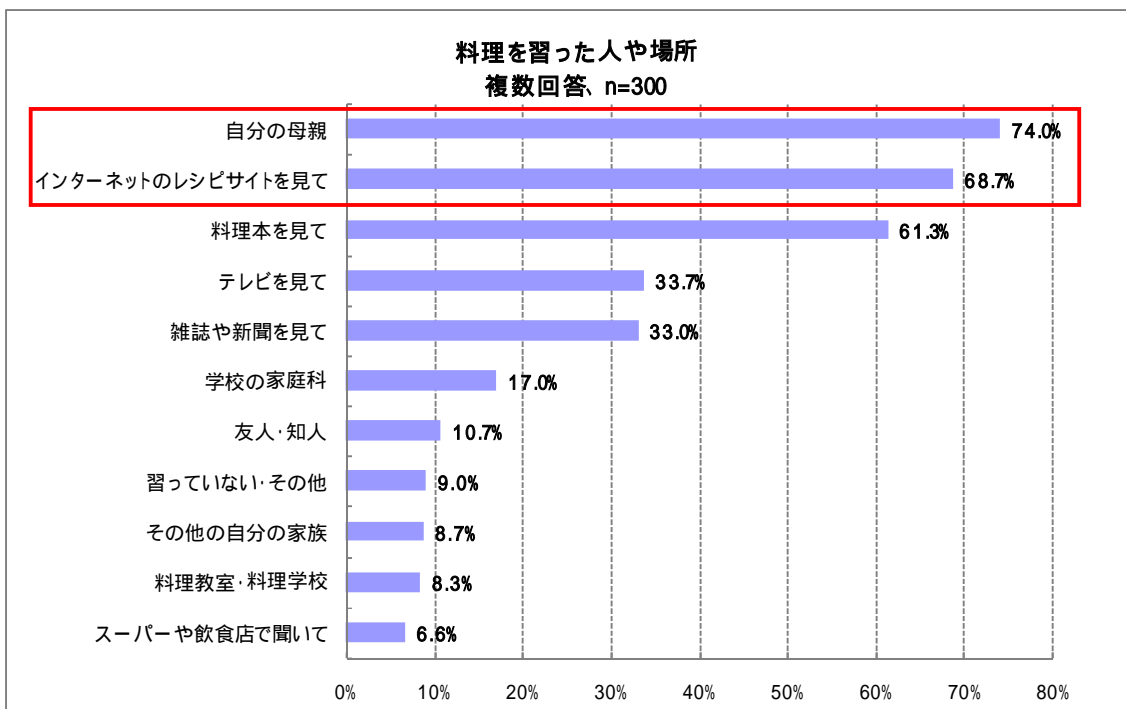
1週間のうち1度も朝食を作らない独身女性は51.7%と半数以上に。

1週間の平均料理回数は、朝食1.86回、昼食は2.27回、夕食は3.38回。

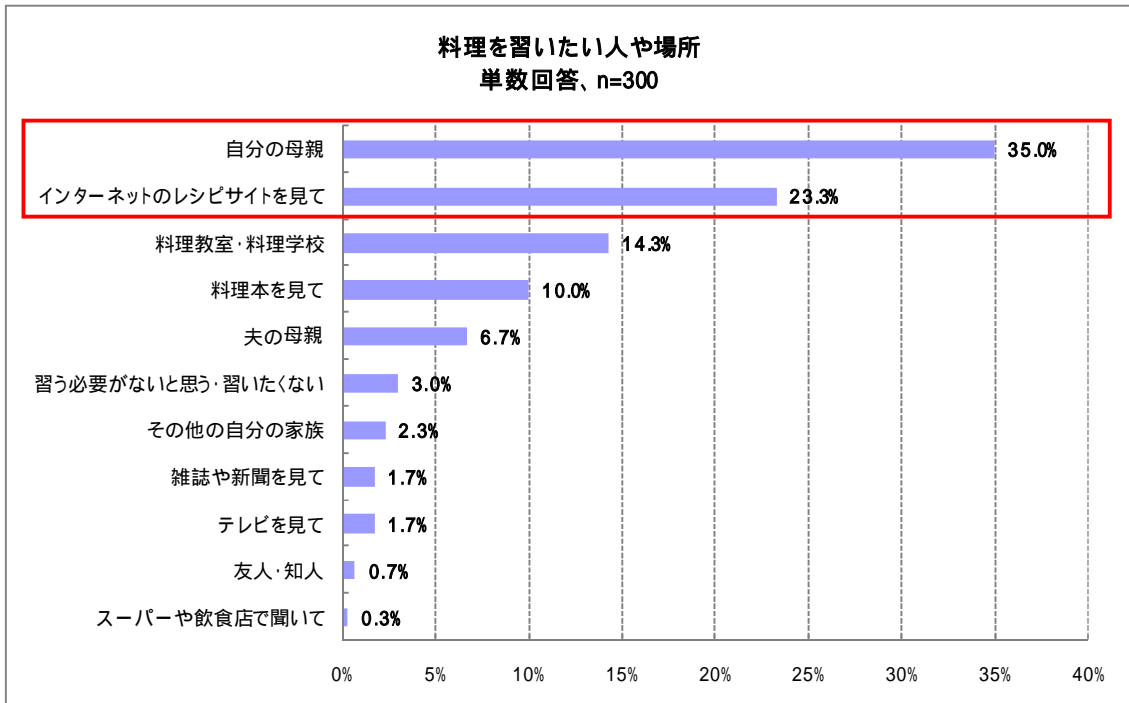
結婚前の女性が現在、1週間で自炊している平均回数は、朝食で1.86回、昼食で2.27回、夕食で3.38回といずれも少ない回数に留まっていることがわかりました。特に、朝食を1週間のうちに1度も作らない独身女性が51.7%と半数以上に達していました。



結婚を1年以内に控える女性に、料理を習った人や場所を聞くと、「自分の母親」が最多でほぼ4人に3人が相当する74.0%が挙げました。次に「インターネットのレシピサイトを見て」(68.7%)と「料理本を見て」(61.3%)が続きました。



今後、料理を習いたい人や場所を聞くと「自分の母親」(35.0%)が最も多く、子供のころから自身が食べていた家庭の味を学びたいという傾向が伺えました。



< 清水信子先生のコメント >

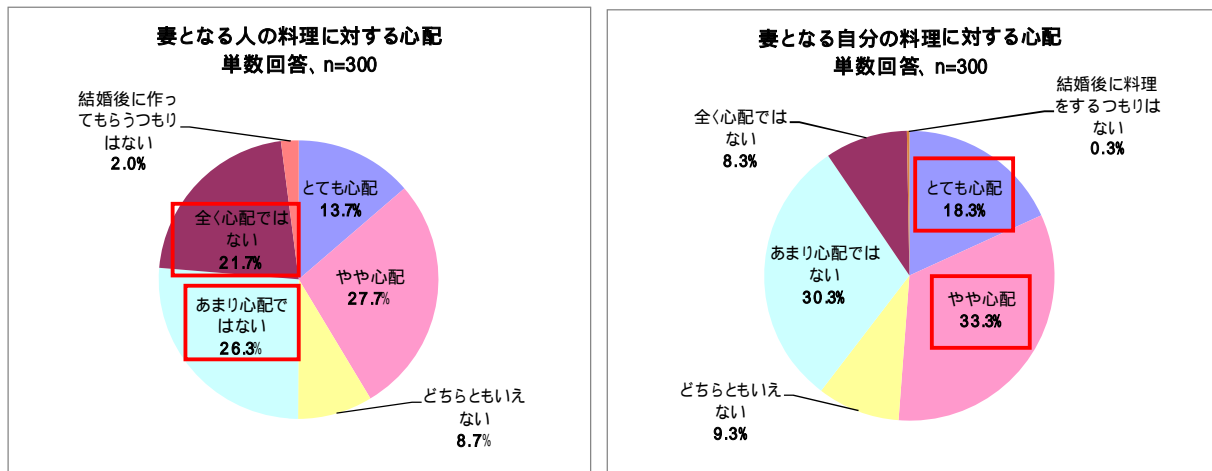
60歳前後の親世代が若かった頃は、料理学校へ通うことが全盛期でした。よって今、婚約中の娘を持つ母親の多くは一通り料理を作ることができます。しかしこの親世代が、子供を育てる時期になったときには、世の中が学歴社会になっていて、自分の娘にはご飯を作るよりも「本を読んだり、勉強しなさい」と言ってきたように思います。娘に「一緒にご飯を作ろう」と言ってこなかったことが、料理を作らない結婚前の女性が増えている原因の1つかもしれません。一緒に親の手さばきを見ながら料理をしていればわかることも、テレビの料理番組やレシピ本を見ていただけではわからないことも多くあります。

料理は慣れが必要で、料理番組のレシピ通りに調理をしているだけでは、レシピの応用力が身に付きにくく、材料の代用などの発想が難しくなります。1つの材料がなくても、他の素材で何かできないかなと工夫してみることも大事だと思います。このような応用力は料理ばかりではなく生活力の向上にもつながり、ひいては日常生活にもいい影響を与えたいと思います。料理を作ることは生活全般の基礎を作ると考えます。

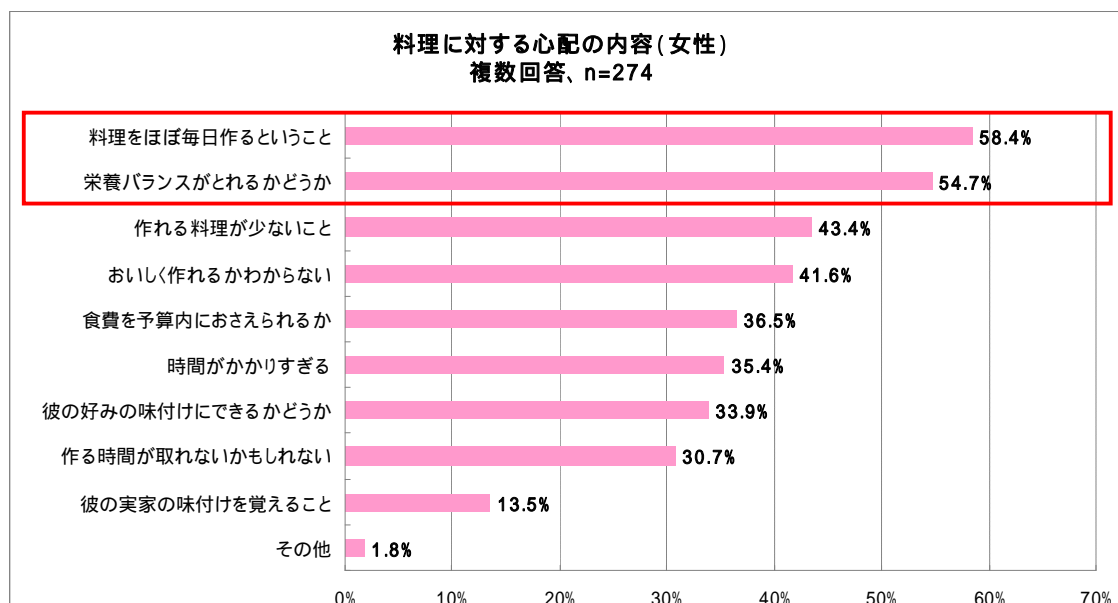
結婚後、女性は自身の料理に半数以上が不安を抱える。
料理への心配ごとは男女ともに「栄養バランス」

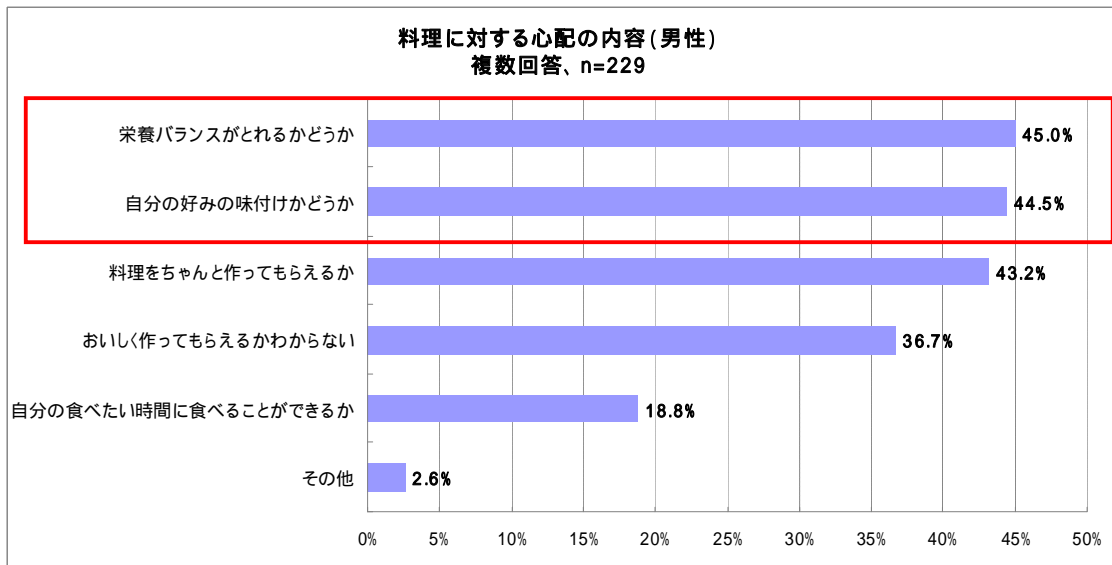
結婚後、妻となる人の作る料理に「とても心配」、「やや心配」と答えた男性は、41.4%であったのに対して、「あまり心配ではない」、「全く心配ではない」との回答は48.0%という結果になりました。婚約者の料理を心配していない男性が、心配と思っている男性をやや上回りました。

一方で女性では、自分の作る料理に関して、51.6%が「とても心配」、「やや心配」と回答しており、「あまり心配ではない」、「全く心配ではない」の38.6%を上回っていました。



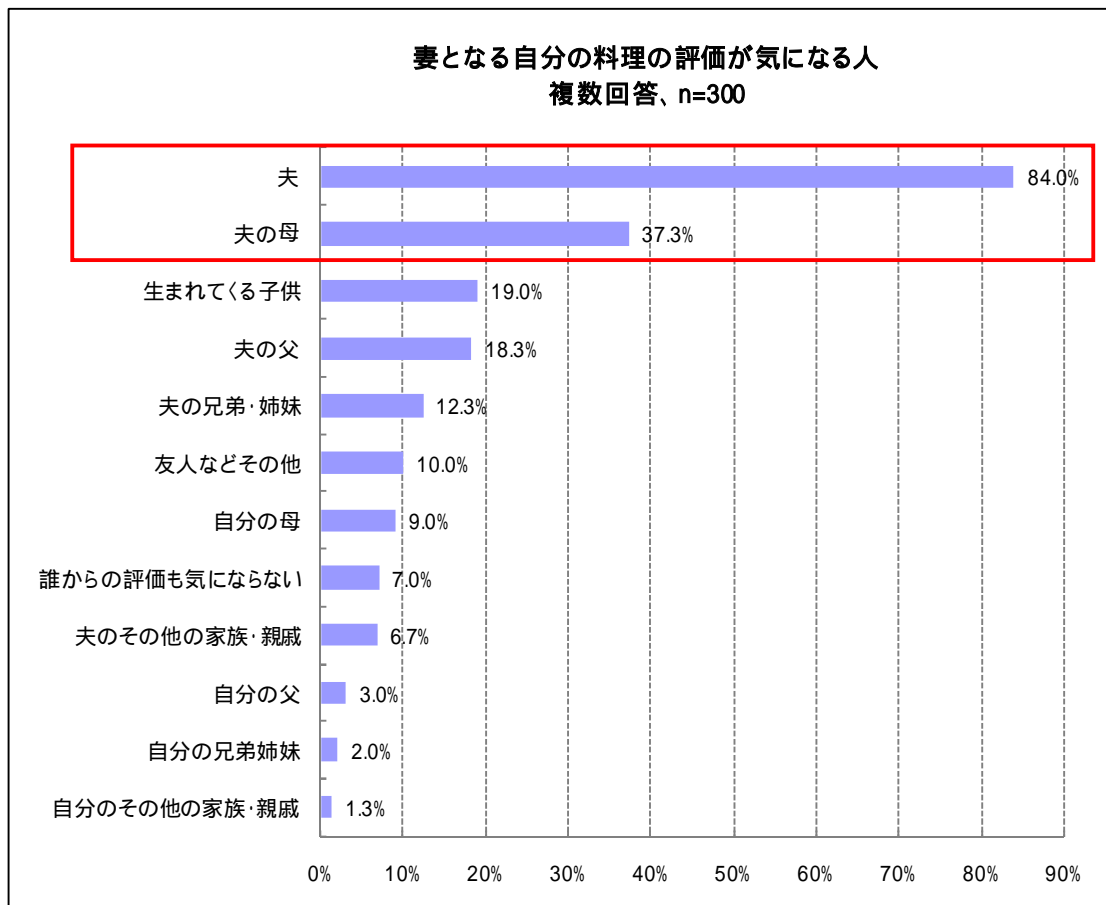
結婚後の料理について心配となる内容として、女性では「料理をほぼ毎日作るということ」(58.4%)が最も多く、「栄養バランスがとれるかどうか」(54.7%)が続きました。男性では「栄養バランスがとれるかどうか」(45.0%)と「自分の好みの味付けかどうか」(44.5%)が多く挙げられました。男女とも、栄養バランスを気にしているということがわかりました。





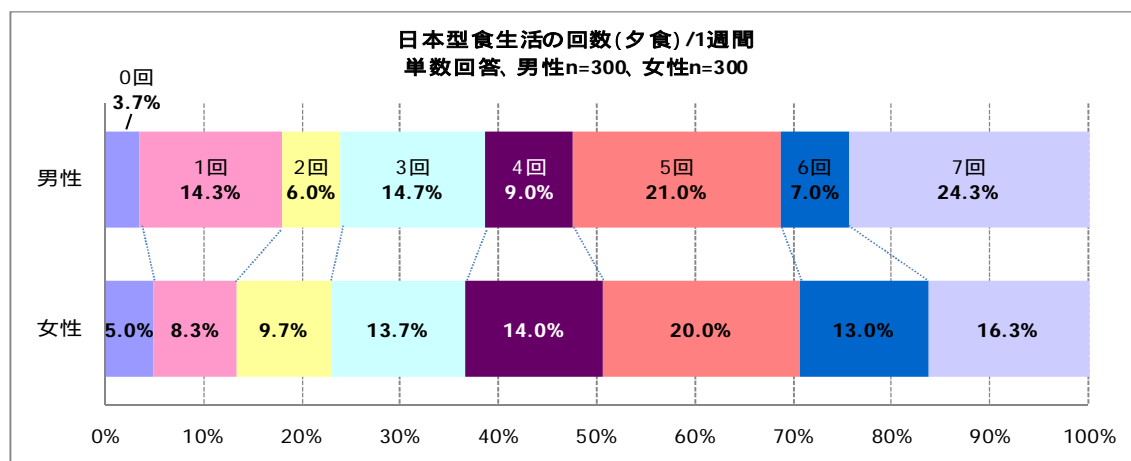
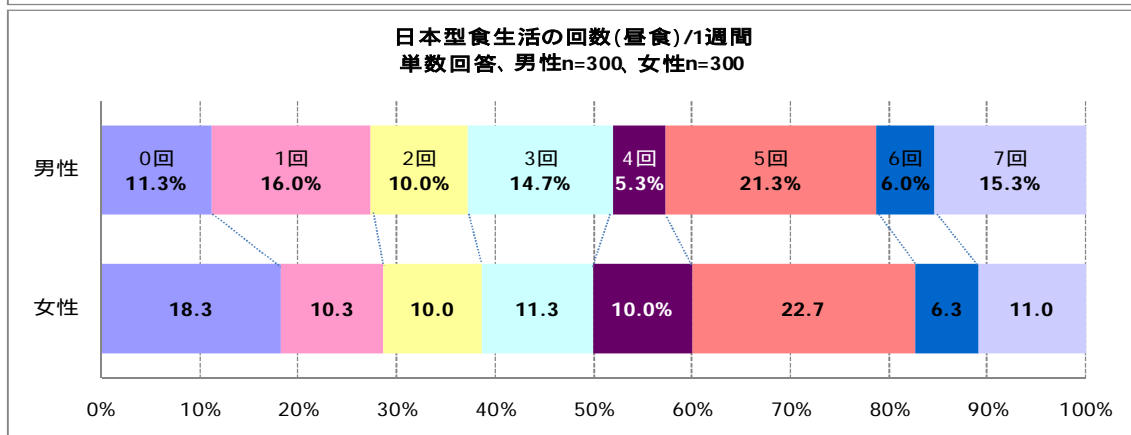
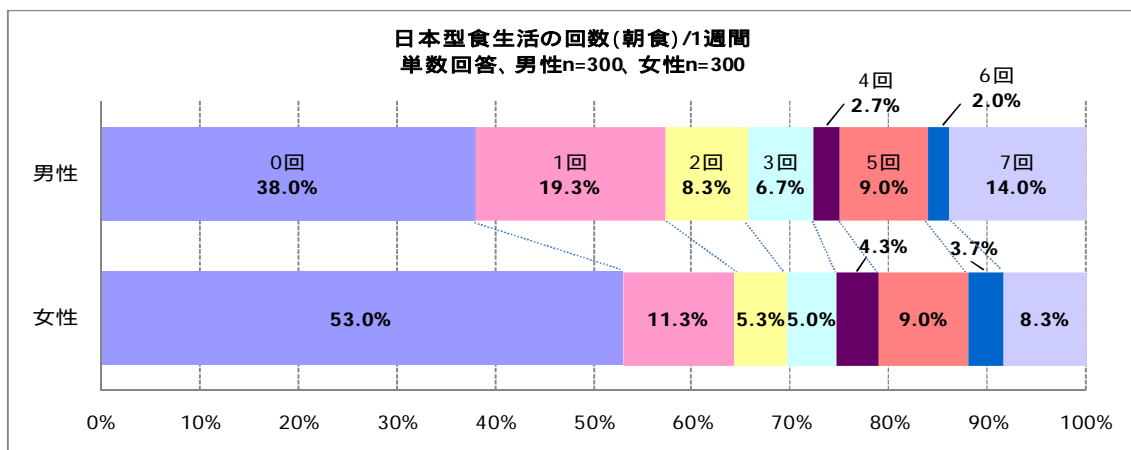
また、「妻となる自分の料理の評価が気になる人」を聞くと、「夫」からの評価を気にするという回答が84.0%と圧倒的でした。次に気になる人は、「夫の母」が37.3%と続きました。

一方で自分の家族に対しては、最多の「自分の母」(9.0%)でも「夫の母」(37.3%)の4分の1という結果で、全体的に気になる人の上位が夫側と、やはり身内より夫の家庭が気になる傾向が表れています。



優れた栄養バランスが見直されている、ご飯を中心に主菜(肉や魚などのたんぱく源のおかず)・副菜(野菜を中心とした料理)・みそ汁など汁物から構成される“一汁三菜の日本型食生活”について、1週間で取っている回数を聞くと、男女平均で朝食 2.01 回、昼食 3.42 回、夕食 4.20 回でした。特に朝食では、1週間に男性で 38.0%、女性で 53.0%が1度も日本型の食事を取っていないことがわかりました。

また1週間の朝食・昼食・夕食で、日本型食生活の回数を男女で比較すると、男性は 2.22 回・3.51 回・4.24 回の一方、女性は 1.80 回・3.33 回・4.17 回となっており、いずれの食事でも女性より男性のほうが日本型食生活を好む傾向がみられました。



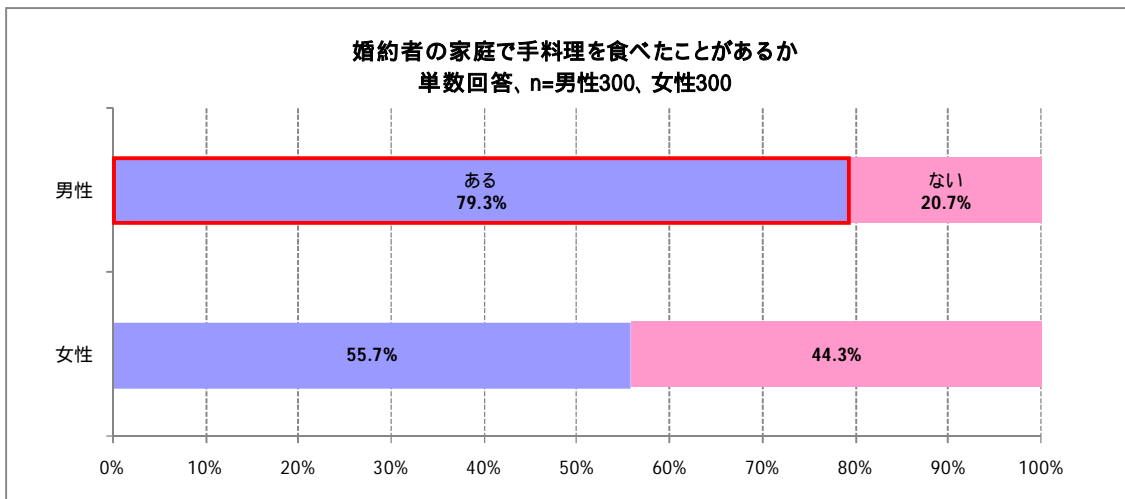
<清水信子先生のコメント>

今後の結婚生活の料理で、男女ともに“栄養バランス”が心配な点として多く挙げられましたが、家庭でも学校教育でも食べ物について正しい知識を教える機会が少ないためだと考えられます。家庭や学校での教育がないまま、大人になったら「健康を考えたバランスのいい食事を作りましょう、食べましょう」と言われても、何が正しいかわからず、大変だと思います。親と子供と一緒に料理をしながら、それぞれの食材の栄養素や調理法を子供に示してあげることができれば、あえて食育にお金をかけることは必要なくなると思います。これからはもっと真剣に子供への“食”についての教育が必要になると思います。

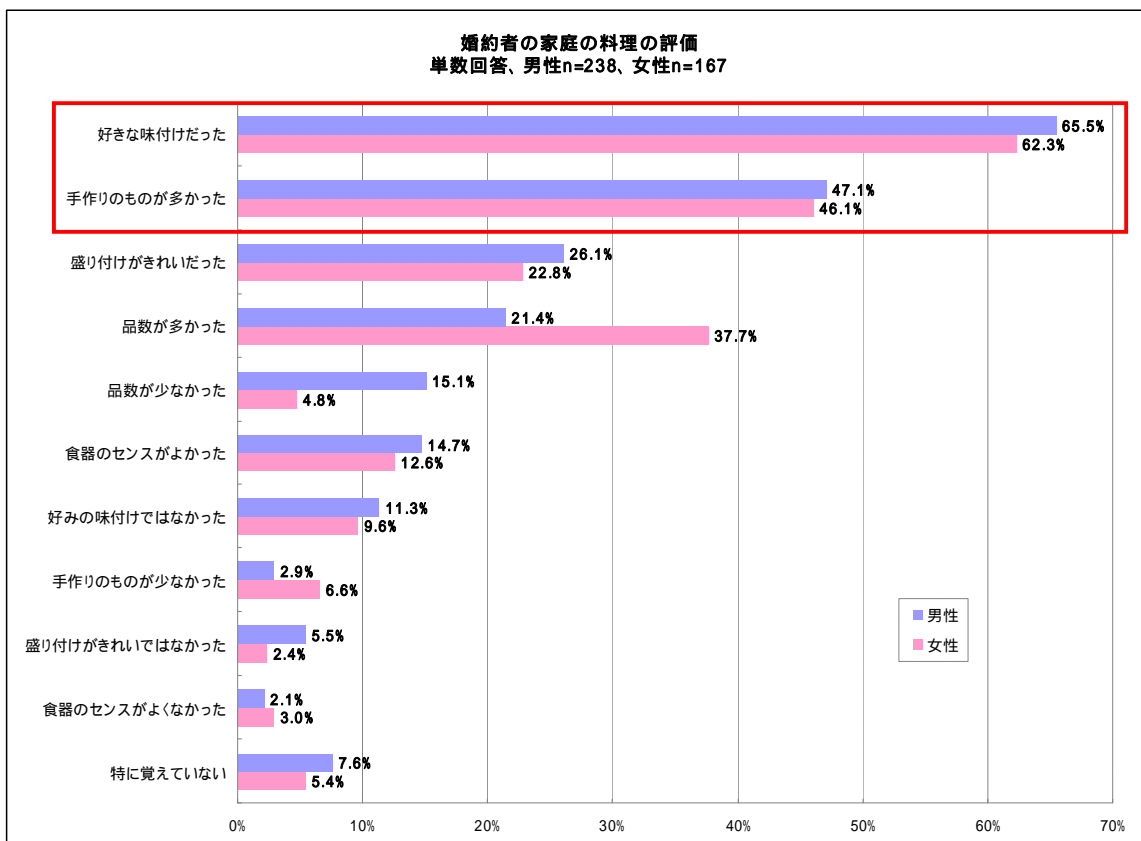
今の時代、お金を払えば手軽に食べられるものが手に入りますが、栄養バランスを考えずに適当な食事を続けていると、何十年か経った後の健康が損なわれる可能性が高くなるでしょう。時間が取れない忙しい朝でも、作り置きしておいたおにぎりとおみそ汁だけでも十分だと思います。食や料理について、勉強して、ノウハウを増やして、そしてなにより実践で慣れてほしいと思います。

結婚する予定の相手の家庭で手作り料理を食べたことがある男性は 8 割程度女性に比べ、相手の家庭の味に触れる機会が多い傾向に。
 姑の料理には好評価。姑が気をつけることは「品数」のバランス。

婚約者の家庭で手作り料理を食べたことがある男性は、79.3%と約 8 割に達するのに対し、女性では、55.7%で 6 割未満という結果が出ました。つまり男性のほうが、相手の家庭の味にふれる機会が多い傾向があるようです。



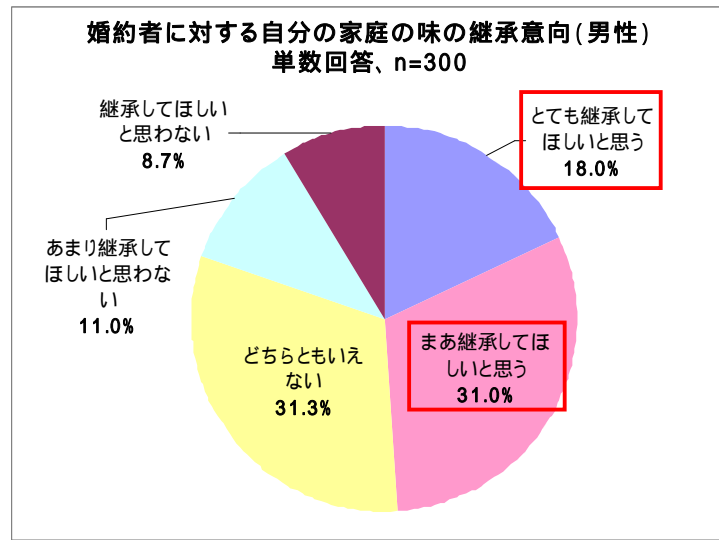
また、婚約者の家庭料理を食べたことがある人の中では、男女ともに、「好きな味付けだった」(64.2%) や「手作りのものが多かった」(46.7%) など、プラスの評価をしている人が多いことがわかりました。



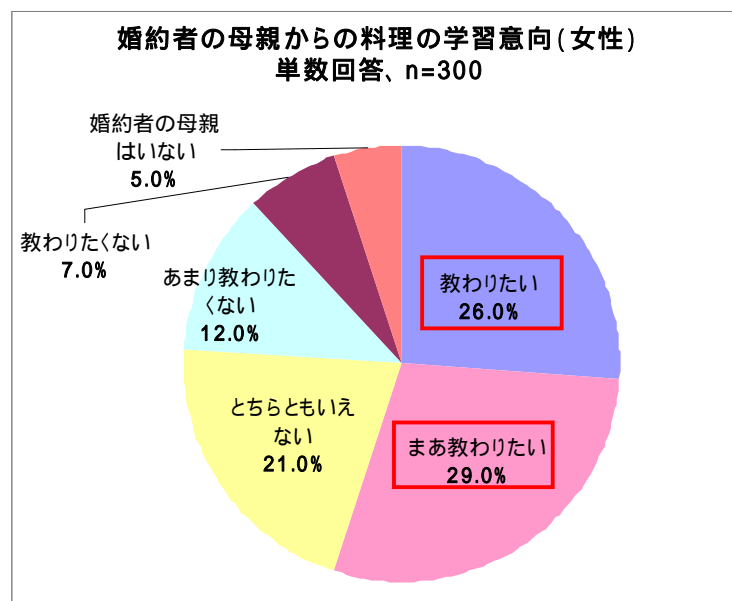
男女ともに家庭の味の大切さを認識

婚約者に自分の家庭の味を覚えてほしいと思う男性/相手の家庭の味を覚えたいという女性、ともに「思わない人」の2倍以上

男性で、「結婚する相手(婚約者)に自分の家庭の味を覚えて(引き継いで)もらいたい」と回答した人の割合は、「とても思う」、「まあそう思う」を合わせて49.0%で、「あまりそう思わない」、「そう思わない」の19.7%を大きく上回りました。

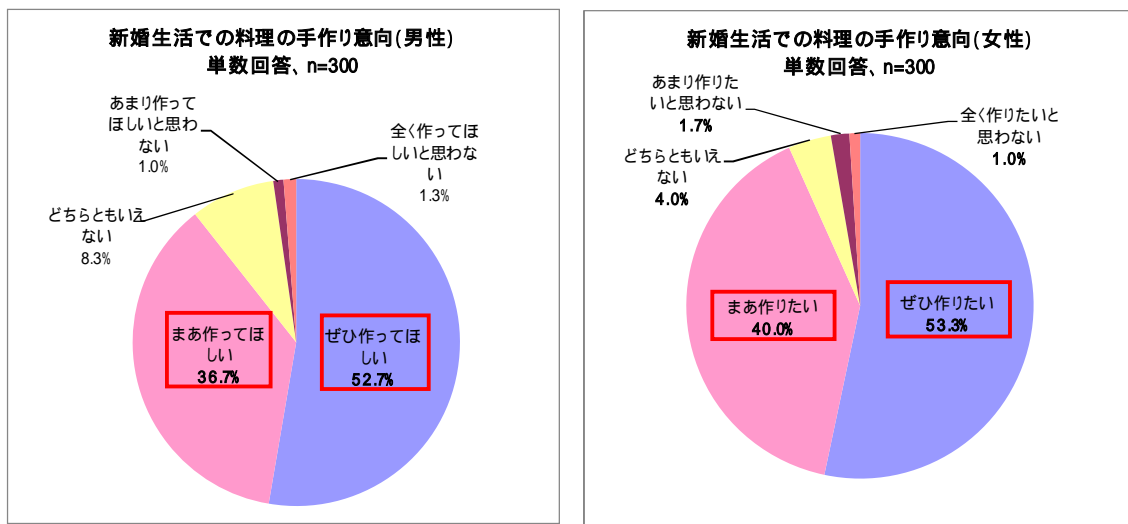


また、女性も「結婚する予定の相手(婚約者)の母親から料理を教わりたいですか」の質問に対して、55.0%と半数以上が「教わりたい」か「まあ教わりたい」と回答しており、「あまり教わりたくない」、「教わりたくない」(19.0%)を大きく上回る結果となりました。食事に対する意識では、家庭の味を作って欲しいと考える男性に対し、女性は、その期待に応じて相手の家庭の味を学ぼうとする意識がみられる結果となりました。



新婚生活で、妻の手作り料理を食べたいと思う男性は、ほぼ 9 割。
女性も夫のために手作り料理を作りたいと考えている人の割合は、9 割以上。

結婚後、女性に手作り料理を作ってもらいたいと思っている男性は「ぜひ作って欲しいと思う」、「作って欲しいと思う」を合わせて、89.4%に上りました。また、男性に惣菜・レトルト食品・冷凍食品などを使わずに、素材から調理した手作り料理を作りたいと考えている女性は、「ぜひ作りたい」、「まあ作りたい」を合わせて、93.3%に達しました。この結果から、新婚生活では男女ともに手作り料理の大切さを意識していることがわかりました。



また、男性が妻に作ってもらいたいメニューでは、「カレーライス」(45.0%)が最も多く、「肉じゃが」(43.0%)、「みそ汁」(41.7%)が続きました。一方、女性が夫に作ってあげたいメニューでは、「みそ汁」(59.3%)が一番多く、次に、「肉じゃが」(59.0%)、「ハンバーグ」(57.7%)が挙げられました。男女の上位5位のメニューに関して、順位は異なりましたが、男性の食べたいもの・女性が作ってあげたいものがほぼ一致していることがわかりました。

妻に作ってもらいたいメニュー
複数回答、n=300

NO	メニュー名	人数	%
1	カレーライス	135人	45.0%
2	肉じゃが	129人	43.0%
3	みそ汁	125人	41.7%
4	ハンバーグ	114人	38.0%
5	野菜の煮物	104人	34.7%

夫に作ってあげたいメニュー
複数回答、n=300

NO	メニュー名	人数	%
1	みそ汁	178人	59.3%
2	肉じゃが	177人	59.0%
3	ハンバーグ	173人	57.7%
4	野菜の煮物	170人	56.7%
5	カレーライス	166人	55.3%

< 清水信子先生のコメント >

新婚生活では、男性は女性に料理を作ってほしいと思い、女性も男性のために手料理を作ってあげたいという気持ちが強く、お互い手料理への意識が高くなっていて、理想的な結果になっていると思います。

自分や結婚相手の母親、周りのサポートも受けながら、結婚前の「料理を作ってあげたい」という初々しい気持ちを持ち続けて、体に良い食事を作ることを習慣にもらえればと思います。

< 本アンケート結果を通じての清水信子先生のコメント >

結婚を前にした多くの独身女性が自炊していないことがわかりました。しかし結婚後は、料理を作ってあげたいという気持ちが高いことがわかり、結婚を機に“食”への意識を変えてもらえればと思います。今の結婚を控えた若い人たちは、食についての教育を受ける機会に恵まれず、“食”が体を作り、心を作るという認識が低いと思います。食べたものが心や体に影響を与えるということや今後の家族の健康、そして子供への教育を考え、一食一食を大事に考えてほしいものです。